

鳳凰の舞

資料集



慈鈴/著

リスト



『鳳凰の舞』 各章の紹介

『鳳凰の舞』をお読みくださってありがとうございます。

連載も進んできましたので、各章の概要をまとめたページを設けました。

◇連載本（薄緑の表紙）

連載本は第1章のみ常時無料公開。それ以外は期間限定公開となり、くぎりのいいところで、合本にまとめます。

第1巻 第1章 『三きょうだい①』 公開中。無料。合本1にも収録。

明るくさわやかだが、少しい加減なアシュと勝気な美少女シエラは双子の兄妹。素直でおとなしい末っ子のラシャは少し甘えん坊。そんな三人きょうだいの両親はそれぞれ特異な能力を持ち、山のとっぺんに変わった学校を開いた。辺境の山岳地帯に各地から修行者が集まる。

三きょうだいを中心とする愛と魂の軌跡を描く。

第2巻 第1章 『三きょうだい②』 公開中。無料。合本1にも収録。

幼馴染のトーマと恋仲になったシエラだが、思わぬ悲劇が襲い掛かる。一家の平穏な日々は過去のものとなってしまった。死、そして別離……、試練のときがやってきた。

第3巻 第2章 『放蕩のアシュ』 合本1に収録。

山を降りたアシュは故郷を離れ、各地を転々としていた。そんなある日、小都市ホカスで格闘試合に参加。偶然の出会いが運命の歯車を回す。そして新たな恋の芽生え。放蕩の末に、落ち着き先を見つけるが、女の味を覚えたアシュ、こちらのほうも落ち着くか？

第4巻 第3章 『マホガの乱』 合本1に収録。

第三代会主には、初代ジュートの遺言通り、娘のシエラが就任。しかし、その会主継承はすんなりとはいかなかった。

第5巻 第4章 『トーマの帰還』 合本1に収録。

トーマが剣山を修了して神山へ戻ってきた。晴れてシエラとくつつくかと思ったら、なかなかそうはいかない。弟ラシャはそんな二人のキューピッド役となって、いじらしく(?)立ち回る。

第6巻 第5章 『会主一家のとある一日』 合本1に収録。

シエラたち一家の日常的なとある一日……のはずが、けっこう波乱万丈な一日になってしま

った。レイの父親はいったい誰？ シエラの悩みは続く。コミカルに入ってシリアスに抜ける一話。

第7巻 第6章 『剣山のラシャ』 公開中。

剣山入門者最年少のラシャは、愛想は悪いし、態度もでかい。一部の仲間から嫌われ、洞窟に閉じ込められてしまう。飢えと寒さに苦しみながら、もうだめかと思ったときに別世界へ迷い込む。そこは龍の国であった。

第8巻 第7章 『ベラチェク』 公開中。

ロードの弱体化につけこみ、エリースはメノ川南岸を次々と影響圏におさめていく。ここでもアシュが活躍するのであるが、活躍の仕方が上司ナルセには頭が痛い。

第9巻 第8章 『ミミの冒険 ラシャを訪ねて三千里……ではなく三里』 公開中。

珍獣ミミはラシャの友達。イタチにしてはずんぐりむっくり、アライグマにしてはスマート。

そんなミミの視点から、これまでの章とは打って変わってメルヘン調にお送りする作品。

ラシャが剣山に入ってしまった、寂しい日々を送るミミ。あるとき、ついにラシャを追って家を抜け出し、旅に出る。ラシャを訪ねて三千里……ではなく三里。

第10巻 第9章 『昇級試験』 公開中。

入門から初級にあがるには試験に合格しなければならない。ラシャたち入門組の健闘やいかに。ラシャの動物好きが、困った事態を引き起こすが……。

第11巻 第10章 『ケインの恋』 公開中。

剣山は女人禁制……と多くの修行者が思っていたが、実はそうではなかった。突然、剣山に配属になった紅一点、美貌の女医ミリナをめぐる騒動が起きる。

第12巻 第11章 『競技会』 公開中。

剣山恒例の競技会が開かれた。優勝するのは果たして誰か？

第13巻 『魔境のラシャ』 公開中。

瞑想グセが高じて危険な状態に陥ってしまったラシャ。魔境から抜けられるのか？

第12章『魔境のラシャ』 および 第13章『美人はやダ』 収録

第14巻 『それぞれの悩み』 公開中

○第14章『それぞれの悩み』

ラシャより先に上級にあがったジン、トール、ケイン、カミュ。彼らが順調に能力を開花させていたかというところでもない。それぞれ壁にぶつかったり、仲間と比べて立ち遅れているので

はないかと焦ったりと、みな悩んでいた。

○第15章『生誕の儀式』

シエラとトーマに息子が生まれた。わが子の誕生に喜ぶトーマだったが、自分似の息子を見ながら複雑な思いにかられる。

◇合本（濃緑の表紙）

合本1

『鳳凰の舞』連載本の第1巻から第6巻（第1章『三きょうだい』から第5章『会主一家のある一日』まで）の合本です。ラシャが剣山に入山する前の話をまとめました。

◇鳳凰山

主人公とその親族

ラシャ

本作品の主人公。動物好き。三きょうだいの末っ子。ごく普通の甘えん坊の子どもであったが、父や母の他界により疑い深い性格に変わる。柔らかいプラチナブロンドの髪、グリーングレーの瞳。

アシュ

ラシャの兄。自由奔放で、明朗な性格。女好き。赤茶色の髪。茶色の瞳。

シエラ

ラシャの姉。三代目会主。予知能力などの異能を持つ。長い黒髪。グリーングレーの瞳。アシュとシエラは双子の兄妹。

ジュート

三きょうだい（アシュ、シエラ、ラシャ）の父。鳳凰会の開祖。初代会主。はるか西域の国トーラスで暴君として君臨していた過去を持つ。プラチナブロンドの髪、グリーングレーの髪。眉間にしわが寄った厳しい面立ち。ラシャの容貌は父譲り。

エリカ

三きょうだいの母。ジュートの伴侶（妻）。ジュートの死後、二代目会主に就任するが、まもなく原因不明の死を迎える。黒髪の美女。アシュとシエラは母親似。

レイ

シエラの子。公式には弟とされている。アシュに瓜二つ。

ラシャの剣山入門同期ほか

ジン

ラシャ入門時、同級の最年長。リーダー的存在。物静かで落ち着いている。目を全開することがなく、完全にまぶたを閉じているか、開いても、せいぜい薄目を開ける程度。ストレートの長い黒髪を背中で束ねている。

トール

体格がよく、力が強い。豪快な性格。気さくで頼れる兄貴分。ごわごわした薄茶色の髪を後ろにまとめて束ねている。食いしん坊。西方の大国ラードの出身。ジンと仲がいい。

カミュ

剣山内でラシャが唯一心を開く友達。ラシャが入山するまで、剣山最年少修行者（入門時十二歳）だった。丸顔、童顔。

ケイン

同級では最優秀。なぜかラシャを目の仇にしている。昇級試験を得て、少し態度が軟化するが……。

両親が西域の出身で、浅黒い肌、緑色の目、ダークブロンドの髪というエキゾチックな色合い。

ゲタ： ケインと仲がいい。背が低く、太め。

ボードー： ケインと仲がいい。痩せ型で、背高のっぽ。

ハラス： ラシャに馬鹿にされたことから、ラシャを氷室に閉じ込めようというケインの誘いにのる。

剣山の師匠・スタッフほか

ナグール： 剣山総長。ラシャを鳳凰会の会主にしたがつている。

カブト： 上級担当師匠。

シシーブ： 中級担当師匠。芸術愛好家として知られている。

スズリ： 初級担当師匠。放任主義。弟子の名前を覚えなことで有名。

ゴン： 入門担当師匠。面倒見がいい。弟子たちに慕われている。

カズ： 剣山のレーダー《千里眼》の中でも最も優秀な透視能力の持ち主。

イーハ： 剣山内医務方の長。

ミリナ： 剣山内医務方に配属となった美貌の女医。

その他、鳳凰山における重要人物

カリंगा

ジュートの一番弟子。地元の出身。シエラが会主に就任した後は、その最も信頼する補佐役で

あると同時に実質的に鳳凰山の運営を取り仕切る最高実力者。

トーマ

アシュやシエラの幼馴染。シエラとは恋仲。

◇エリース （大陸東部で最も栄える大国。家出後のアシュの落ち着き先）

ナルセ： 政府軍司令官。

ヨシノ： ラテナン（エリース大神殿の医療を司る部門）の女医。

アイバ： アシュの仲間。先輩・悪友。

タノコ： アシュの仲間。先輩・悪友。

クレア： アシュの恋人。

◇ベラチェク （メノ川南岸諸国のひとつ。二つの大国エリースとラードの間で、どちら側につくかで揺れている）

ブリュー

ベラチェク王女。アシュに興味を持つ。エリース派。

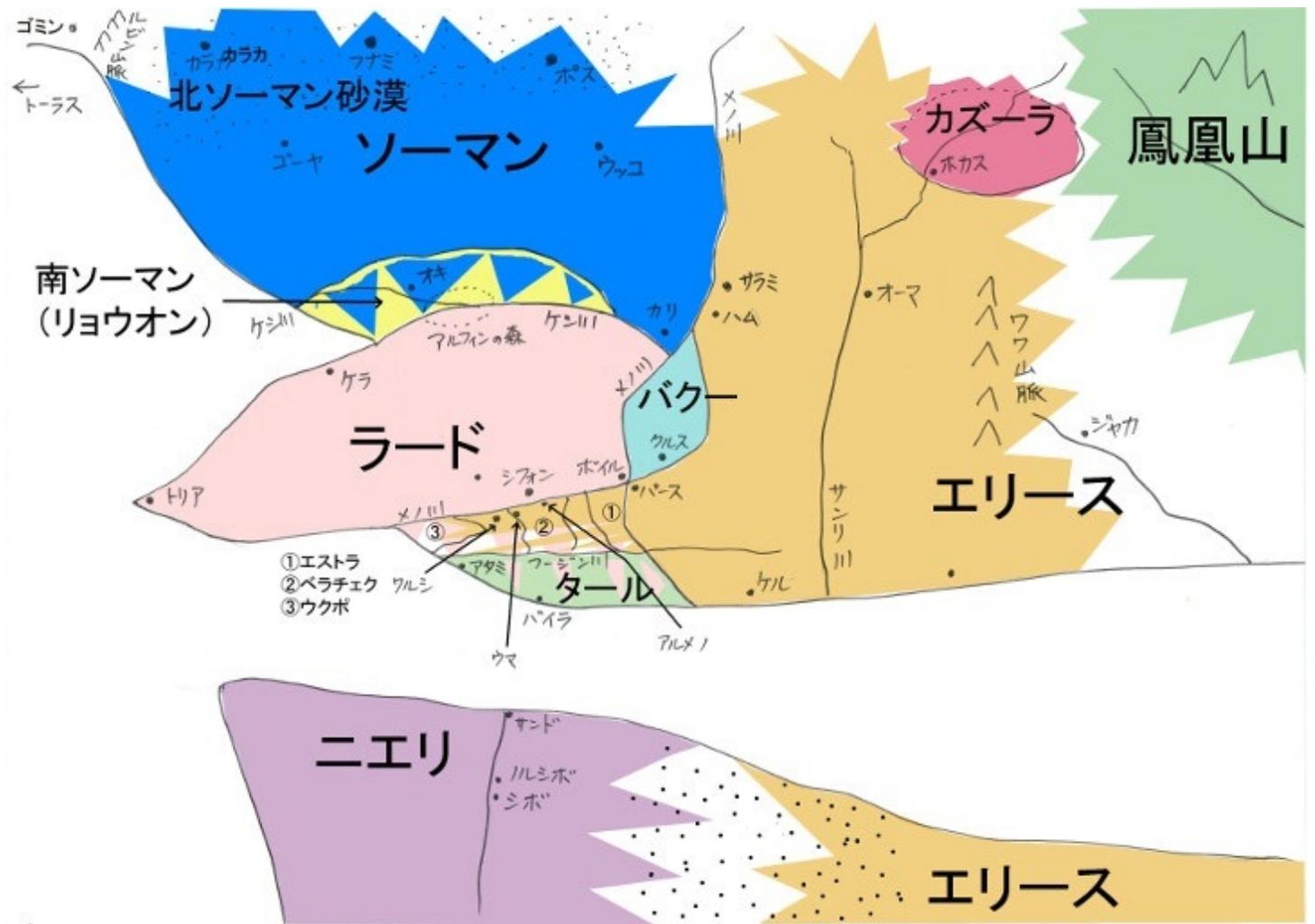
リント

ベラチェク王子。ブリューの弟。

地图



図1 エリース文化圏地図



注1 りざりざりの部分は国境が定かでない。

注2 色がまだらな地域について

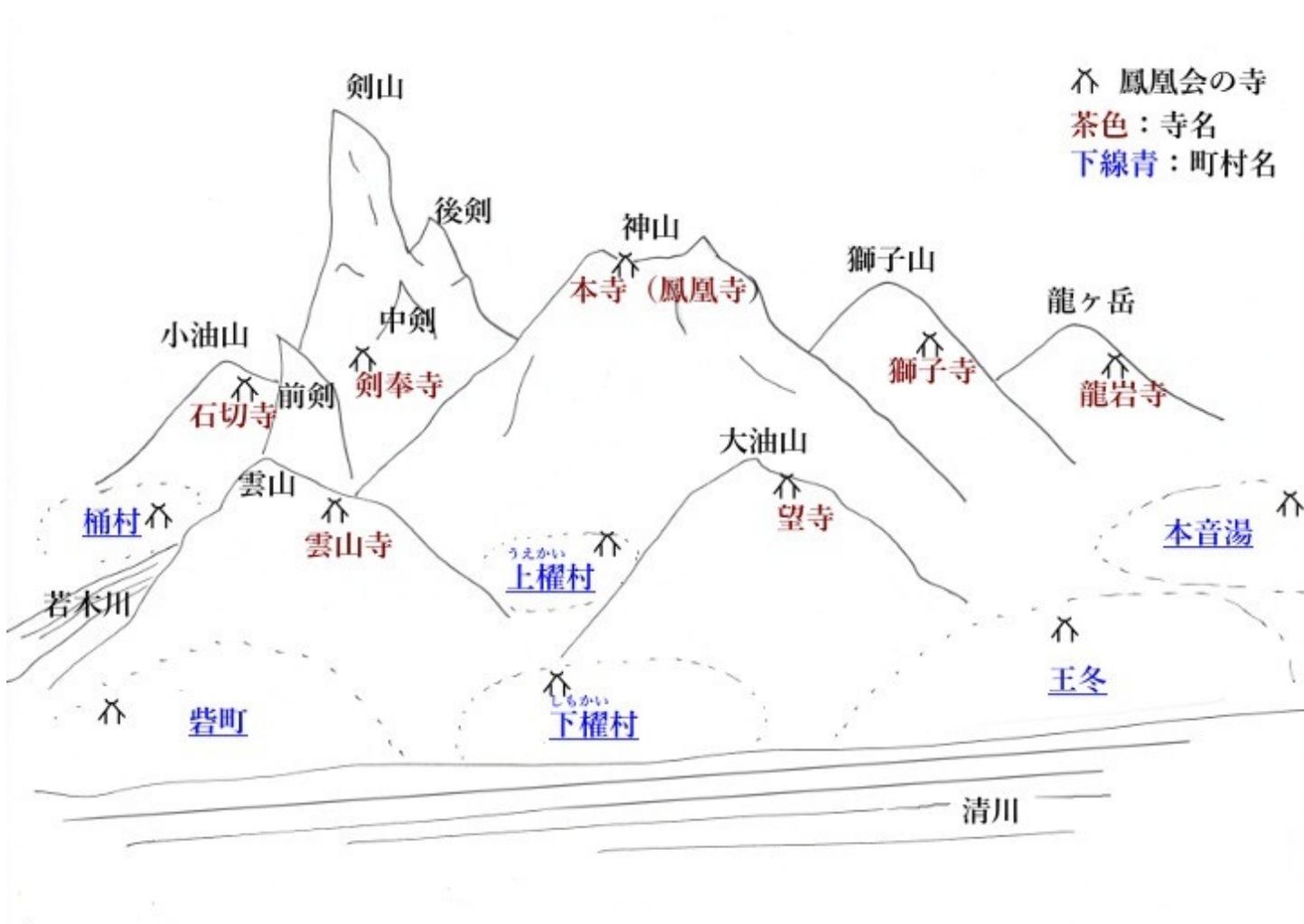
南ソーマン (リョウオン) : ソーマンの一部なのかリョウオン国なのか、立場によって変わるため青と黄のまだら。

メノ川南岸 : ラードの勢力圏であったが、エリース傘下に入ったり、またラード側についたり、物語の中でも旗色が変わる地域。

タール : もとは独立国。タールの王がラード王となったときからラードの一部となった。

図2 鳳凰七山とその近郊

三きょうだいの生まれ育った鳳凰山の中心部、鳳凰七山のイメージ図です。



清川の手前、および山の背後も「鳳凰山」です。(地図1参照)

衣装



兵部会服

稽古服

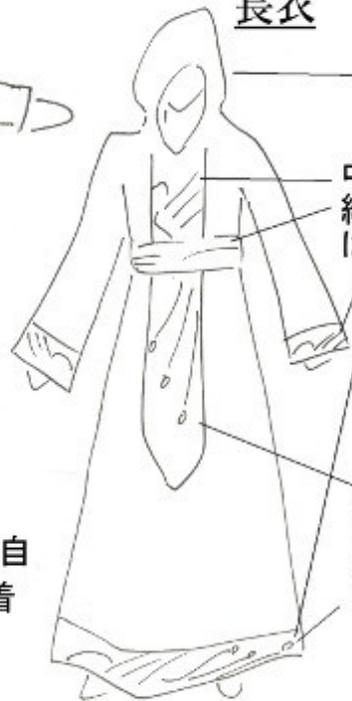
袖の長さは
さまざま



膝下を
紐や幅のある布で
固めている

主に白、卵色、茶色などの自然色。長衣や短衣の下に着ることもある。

長衣



フードつき

中央の当て布と
縁取り、および帯
は黒地

剣山修了生は
当て布と縁取りに
羽ばたく鳳凰

短衣



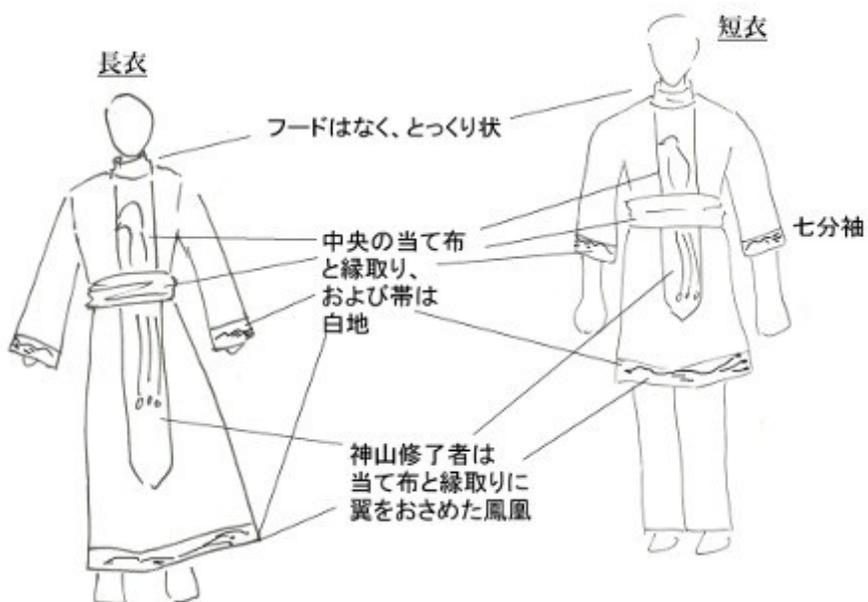
袖の長さ
には
バリエー
ションあり

膝下を
紐や幅のある布で
固めるか、ブーツ

薬部会服



兵部の稽古服と同じであるが、薬部においては下着の位置づけ。これで歩き回るとはあまりない。兵部との違いは膝下を固めていないこと



鳳凰の舞 資料集

<http://p.booklog.jp/book/90391>

著者：慈鈴（じりん）

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/jirin/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/90391>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/90391>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ